

地域再発見 一高 竹原田地区
ウォーキングマップ



たけはらだ 竹原田

鎌倉時代の古文書によると、当地区は竹邑（むら）と称して
いて、竹林の多かった所であったと言われている。

1 山の神 (やまのかみ)・・・薪を生活の第一必需品として使った時代には、山林から薪を採取していた。山までの作業の安全を祈願して、山の神を崇拝したものだ。この山の神は、昭和2年に再建され、違う所にあったが、時代の流れて昭和50年にちびっ子広場の中に遷座したものである。



2 満願寺 (まんがんじ)・・・曹洞宗広蔵院の隠居寺とも言われ、広蔵院18世大通沢舟禅師中興の祖となる。本尊は、十一面観世音菩薩摩立像（県文化財）で行基の作と言われている。この仏像には、長野県松本市の清水寺の像と共に甲信地方における平安期の作として重要なものである。入口付近に庚申塔あり。



3 大塚諏訪神社 (おおづかすわじんじや)・・・通称、大諏訪さんと呼ばれる。社記によると、天保12(1841年)年7月25日諏訪大明神社を勧請し祭神とした。御神体は高さ60センチの廟の中に金箔の御幣である。古代は、狩猟の神、農業の神として崇敬され、中世武家時代には、日本一の軍神として崇められ、武田信玄の「諏訪南宮法性大明神」の旗印にもなっている。



4 大塚組の道祖神 (おおづかぐみのどうそじん)・・・宝暦6年(1756年)8月に建立したもので、氏子は大塚組全域である。この年代には、道祖神信仰が盛んであった。本来は境を守り、悪霊の侵入を遮る神である。5つの道祖神のうち3つがあがっている。



5 太子堂 (たいしどう)・・・言い伝えには、聖徳太子が時の帝推古天皇の命を受けて馬に乗り各国を巡行なされた折、梅の若木の梅鞭で一鞭すると、一足飛びに駆け出し、危うく落馬寸前になった。ようやく止まった場所が太子堂の処である。ここでしばらくお休みになり、お立ちになる時、持ってきた梅の枝の鞭を地面に逆さに刺して行ったところ、後に根が出て成長して梅の香りをたたえたという。



6 若鞭組の庚申塔 (わかむちくみのこうしんとう)・・・建立天明4年(1784年)11月吉日高さ1m40cmの御影石に青面金剛塔とある。同一場所に道祖神、庚申、地蔵像が合祀されている。庚申は、悪魔・悪病を追い払い、風邪・咳などの治病神、あるいは作神・福神と見なされている。(「若鞭」の地名の由来は5の伝説から)。



7 新居組の道祖神 (あらいぐみのどうそじん)・・・建立は明治23年で中央に神武天皇、左に道祖神、右に蚕影山が祀られている。神武天皇は皇統初代の天皇で、諸国を平定して大和国(奈良県)の地で即位の式をあげ紀元元年と定めた。蚕影山は当地域の養蚕が盛んになった時代に、蚕の守護神として祀った。



8 石尊さん (せきそんさん)・・・大正時代に再建の議が起り、大正8年に再建された。秋葉大神、石尊大神、津島大神の3神を合祀して石尊さんと呼んでいる(この3神合祀は珍しい)。秋葉さんは火を守る神様で、石尊さんは水を守る神様、津島さんは病魔を払い除く神様である。



9 南組の道祖神 (みなみぐみのどうそじん)・・・建立寛政9年(1796年)。今から約200年前の経済的に苦しい時代にこの様な立派な道祖神を建立したことは当時の信仰の深さを偲ばれるものである。他の道祖神さんと同様、その地域の境を守り悪霊の侵入を遮る神である。



【散策時間：約2時間】